

平成29年度 学生海外PBLプログラム 概要

部局名 人文社会科学部

区 分	内 容
事業名	人文社会科学部授業科目「トラベルスタディーズ」に係る学生の海外学習奨励事業
指導教員	① 人文社会科学部 准教授 澤田真一 ② 人文社会科学部 講師 ミッシェル、ジャンソン ※①は、チームリーダー
学生の所属	人文社会科学部 学生11名
渡航先 (渡航期間)	ニュージーランド(平成29年8月4日～平成29年8月21日) フランス(平成29年9月9日～平成29年9月24日)
実施スケジュール	トラベルスタディーズA 平成29年 8月4日 ニュージーランド渡航 " 8月7日～8月18日 オークランド工科大学で研修 " 8月20日 帰国 トラベルスタディーズB 平成29年 9月9日 フランス渡航 " 9月11日～9月22日 ボルドーモンテニュー大学で研修 " 9月24日 帰国
プログラムの概要	<p>1. 目的： 人文社会科学部授業委科目「トラベルスタディーズ」は、教員引率の下に海外の協定大学等の訪問・研修を行う新規科目であり、学生にグローバルな見聞を広めさせ、自己や地域を多面的かつ相対的に捉え直させると共に、学生による地域情報の発信を意図している。人文社会科学部では、当該科目について年間4名の学生の渡航費用支援を行うが、PBLプログラムを通じて、さらに支援対象者を拡充することが目的である。</p> <p>2. 事業概要： 平成29年度はニュージーランドのオークランド工科大学とフランスのボルドー・モンテニュー大学の訪問を計画している。学生渡航費用(20万円程度)の半額(上限10万円)を支援する。全体で11名の支援をする。事業費は、そのうち7名分(4名は学部負担)の支援経費である。</p> <p>3. 設定した課題： 語学学校での語学研修の他に、参加学生には大学図書館等を利用しての自主研究を課し、「外国人にとって心地よい空間としての弘前市とは」という問いを念頭に、「差異」が「差別」に転化しない、あるいは「ハンディキャップ」につながる多文化共生社会の在り方についての理解と学びを現地で深め、帰国後に発表会において研究の成果についてのプレゼンテーションを行う。</p> <p>4. 期待される成果等： 経済的理由により海外研修が困難な学生に対する均等な教育機会の提供が実現するとともに、協定校での情報発信を通じての、弘前大学の国際化が促進される。</p> <p>5. 当事業が弘前市や弘前市関連地域にあたる効果・成果等： 協定校に於いての情報発信は弘前市を海外に知らしめると共に留学生数の増加に貢献し、学生の異文化体験及び「多文化共生」に特化した研究は、「弘前市が外国人にとって心地よい空間」となるための実践的な知恵とアイデアをもたらすことが期待される。</p>

プログラムの様子



【写真1：オークランド工科大学でのプレゼンテーション】



【写真2：マオリの急成長企業ポウタマ社訪問】



【写真3：NZの国民作家ウィティ・イヒマエラ氏と】



【写真4：ポルドー美術館ブドウの木とワイン】



【写真5：ポルドーモンテニュー大学の学生との交流】



【写真6：ポルドーモンテニュー大学での語学研修】

今後の展望

トラベルスタディーズは、人文社会科学部が誕生するにあたり、新たにつくられた科目であり、日本の外に出て異文化に触れ、外国語を用いて様々な人と接することを通じて異文化理解を深め、コミュニケーション能力を磨くことを目的としている。学生たちは協定校において、弘前・日本文化を紹介するためのプレゼンテーションをすると共に、「外国人にとって心地よい空間としての弘前とは」という問いを念頭に、多文化共生社会についての自主研究を行った。学生間の交流に触発され、参加学生のうち3名の次年度留学とオークランド工科大学から3名の学生の受け入れが決定している。トラベルスタディーズは、これからも弘前大学と海外の協定校との学生間交流を促進すると共に、本学部の教育方針である地域社会のグローバル化の推進に寄与する人材育成に大きく貢献することが期待される。